

第1学年 技術科 年間学習計画と評価

1 教科目標等について

目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせ、生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を養う。</p> <p>(1)生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。〔知識及び技能〕</p> <p>(2)生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなど、課題を解決する力を養う。〔思考力、判断力、表現力等〕</p> <p>(3)よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。〔学びに向かう力、人間性等〕</p>
教科書	技術・家庭 技術分野（開隆堂）
副教材	技・家ノート

2 評価の観点及び方法

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活や社会で利用されている技術について理解するとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解している。	生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、技術を工夫し創造しようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・定期、小テスト等 ・ノート、ワークシートへの記述 ・授業の様子や発言内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期、小テスト等 ・授業の様子や発言内容 ・ノート、ワークシートへの記述 ・指導に対する成果物（レポート、作品等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の様子や発言内容 ・指導に対する成果物（レポート、作品等） ・振り返り（自己・相互評価）

3 学習についてのアドバイス

学校	<ul style="list-style-type: none"> ・準備物を忘れずに持ってくるようにしましょう。 ・授業中に話したことはしっかりと聞き、必要に応じてプリントに書き込むようにしましょう。さらに応用的なこと（日常生活）に活かせるようにしましょう。 ・技術室を利用するときは、安全に事故やケガをしないように心がけましょう。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した内容で分からない部分は復習をしておきましょう。 ・作図や作業の手順、機械や道具の名前、使い方のポイントなどをしっかりと確認しておきましょう。 ・家の手伝いを積極的に行い、学習した内容を活かそうと心がけましょう。

4 主な単元・教材及び目標

※単元等や目標については、主なものを明記しています。

月	主な単元・教材等	主な学習目標
4	・生物育成の技術についての基礎的・基本的な知識・技能	・作物、動物及び水産生物の成長、生態についての科学的な原理・法則について理解することができる。
5 6	・情報の基礎的・基本的な知識・技能	・生物の育成環境を調節する方法などの基礎的な技術の仕組みを理解することができる。 ・コンピュータのしくみを理解することができる。
	・生物育成の技術による問題解決 ・情報の基本的な技能	・安全・適切な栽培又は飼育、検査等ができる。 ・生物育成の技術の見方・考え方を活用し、問題を解決することができる。 ・タイピング等、基本的な操作が身に付いている。
7 9 10	・社会の発展と生物育成の技術	・生活や社会に果たす役割や影響に基づいた生物育成の技術の概念を理解することができる。 ・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、生物育成の技術を評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりすることができる。
	・ソフトウェアの活用	・情報の表現、記録、計算、通信などについての科学的な原理・法則の理解・情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティなどに関わる基礎的な技術の仕組みの理解することができる。
11 12	・ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題解決	・情報通信ネットワークの構成と、情報を利用するための基本的な仕組みの理解することができる。 ・安全・適切なプログラムの制作、動作の確認及びデバッグ等を行うことができる。
1 2	・計測・制御のプログラミングによる問題解決	・情報の技術の見方・考え方を働かせて、問題を見いだして課題を設定し解決することができる。
	・社会の発展と情報の技術	・よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、情報の技術の評価し、適切に選択、管理・運用したり、新たな発想に基づいて改良、応用したりすることができる。